

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者が色紙に「ゆったり いきいきと 自分らしい生活を」と書いてリビングに飾り、実現できるように努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員がホームの理念を共有できるよう朝の申し送り時に復唱している。また、理念に基づいて個別ケアが行えるように日々取り組みをしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	来訪時に目に付きやすい玄関やホーム内にも掲示している。ご入居時やボランティア等の受け入れ時にも担当者より理念についての説明をし、理解していただけるよう努めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節ごとにご挨拶周りを実施し地域のお宅を訪問している。毎年少しずつではあるが、地域との輪を広げている。時々、隣の駐在所のご家族が子連れで遊びに来てくださっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平石北小学校の運動会に参加させていただいたり、近隣の中学生の職場体験学習などを通じ、交流を図っている。近くにある平石地区市民センターでのコンサートにも出掛けて、地域の方々と音楽鑑賞を楽しんでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で地域福祉の現状を収集し、協力できることはないか検討している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義について全職員が理解しており、改善すべき点はカンファレンス等において話し合い、改善に努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でホームの生活状況等を報告するとともに、意見を求めてサービスの向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居相談時の困難事案解決方法などを宇都宮市保健福祉部高齢福祉課担当窓口に見学、アドバイスをいただく等、個人情報に配慮した上で連携を図っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会で権利擁護等について学んできた時には、ホーム会議等の中で伝達している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常において、言葉遣いやケアの中で、ご利用者様の自尊心を傷つけないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用時には経験年数により異なるが2日間程度の実習を行い、ご利用者様の意見を伺いながら採用等調整している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会や高齢者全般に共通する外部研修会へ管理者以外のスタッフも参加し、ホーム会議時に伝達研修を行っている。シルバーホームと合同で入職年数により段階的に研修会を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域では平石地区防災福祉ネットワークを通じ各施設間の協定を結んでおり、特に相互間の防災訓練において、夜間も含め互いに参加・協力し体制を整備している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シルバーホームの合同研修会でカウンセリング伝達研修を受け、自分を振り返る良い機会となっている。また、併設病院の看護部長や併設施設の職員よりスーパーバイザーとしてアドバイスをいただいている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各スタッフの特性を活かした細やかな役割分担を設定し、個人の能力が発揮しやすい環境を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人には何度かご本人と面接する機会を設け、ご本人の不安な事や困っている事を伺うようにしている。来所された際にはご利用者の方々と一緒におやつを召し上がっていただいたり、アクティビティ等に参加していただき、他のご利用者様と談話する機会を設けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様との面接時には、ゆったりとした空間であるリビングや掘りごたつの場所にて伺っている。ホームの普段の生活状況をさりげなく伝えることで、家庭的な雰囲気である事を実感して頂き、不安などが軽減できる様努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のその時の状況により、グループホームより他のサービスを必要としている時は担当ケアマネージャーや、併設施設の相談員に相談し、総合的に支援し対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には数回グループホームへ足を運んでいただいて、他のご利用者様と交流を図っていただいている。又、短期入所のご利用も可能なので、ホームに徐々に馴染めるよう相談・支援している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌や裁縫、おはじきやお手玉等の遊びを教えてもらったりして、共に支え合う関係を築いている。特に季節ごとの料理では作り方を伝授していただきながら、共に作る事で関係を深めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際には、必ず近況を報告し、ご意見の交換やケアの方針を確認している。又、病院受診を依頼することによって、病状についても把握していただけるようご協力を得ている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様とご家族様の両方から希望を伺い、協力の下、ホームで穏やかに生活できるように支援している。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚の方や古くからのご友人の方も面会に来られ、リビングで談話されたり、外出へ行かれています。又、ドライブなどの外出時には、昔住んでいた場所など馴染みのある場所へ行っている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	行事やアクティビティへの参加や日々の生活場面を通し、ご利用者様同士がコミュニケーションを図れる環境・声かけ・見守りをし、支援している。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院・退居された時は、ご家族様の了解を得て病院や施設にご利用者様と共に会いに訪れ、楽しい時間を過ごしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のホームでの生活に対する希望や要望などをその都度伺い把握している。又、担当スタッフが中心となり情報を共有した上でケアプランにつなげて支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様からこれまでの生活環境など、詳しい聞き取りを行っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝検温等を確認し健康状態を把握している。又、1日の日課を定めず、ご利用者様の生活習慣を知った上でご利用者様のペースで暮らせるよう支援している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様にはその都度、ご家族様には面会時等にご意見を伺っている。スタッフはそれぞれ意見を出し合い介護計画を作成し、内容はご家族様に説明し承諾を得ている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間に応じた見直しや、状態の変化に対応したケアを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、職員間で話し合い、ご家族様にも現状を説明した上で新たな計画を作成している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のホームでの様子や介護計画に沿ったケアの提供、対応の仕方などを個人の介護記録用紙（フォーカスチャージング様式）にわかりやすく記入し、職員同士で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院では定期受診を通して医師・看護師・事務スタッフがご利用者の状況を共有してくれている。ご家族様へは必要に応じて法人内の介護サービス情報を提供している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市町村からの見学の受け入れは積極的に行っている。地元の中学生在が職場体験実習をし、ご利用者様のご要望に合わせて活動している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設施設のシルバーホームの支援相談員や、PT・OTに助言をいただいている。又、必要に応じ、入居前に担当していたケアマネジャーの方よりお話を伺っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまで地域包括支援センターと協働でケア検討をする事業がなく活動実績はない。	○	ご利用者の意向に応じて権利擁護等の相談を協議していきたい。



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様と相談の上、受診医を個別に決定している。原則的には併設医療機関以外の受診についてはご家族様にご協力していただいている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近医の専門医療機関と連携を図り、受診時にはスタッフに同行し安心して治療を受けられるよう対応している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院の医師・看護師と24時間連絡相談が可能である。病院の敷地内にあるため、ご利用者の状態に変化が見られる場合など、随時、外来看護師に相談・助言や支援をいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	他設医療機関においては、師長を含めて早期退院に向けて話し合いをしている。他院転院時は病状のご連絡を取り合いながらご家族様の不安が軽減できるよう医療機関と管理者が連携体制を取っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合を想定したカンファレンスを開き、その都度、ご本人・ご家族様の意向を伺っている。かかりつけ医師や看護師に随時、状況を報告、相談し、その状況に応じたアドバイスをいただき話し合いを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医師・ご家族様・スタッフとで充分、話し合いをした上で、看護師のいない当グループホームで提供できるケアを検討し、実行している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご利用者様の不安をできるだけ軽減できるようご家族様と協力し、話し合いや情報交換を充分行っている。又、ご本人の気持ち、意向にできる限り副えるよう、他の機関との連携を取っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者様のご意見に対し、受容する事をまず第一にするようスタッフ全員徹底している。人生の先輩として接し、言葉遣いや対応に慎重さと丁寧さを心掛けている。個人情報の取り扱いは、スタッフが研修を受け秘密保持に努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴時・アクティビティ時や個別ケア時（外出・散歩・買い物等）にご本人の希望や要望が表出しやすい環境を設け、その事がご本人の自己決定、納得につながるよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課や活動の内容は細かく決めておらず、ご利用者様のその時の希望、要望を優先できるよう、スタッフ間で連携調整している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に応じて持参された衣類を好みに合わせて整容している。また、化粧品、石鹸等それぞれに愛用されているものを持参されている。グループホーム内に月に一度、美容師が来所しておりご希望に合わせて利用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>ご利用者様の性格、生活習慣を見出し、負担にならないよう考慮して、その方に担当して頂けるような役割を取り入れている。ご利用者様同士で役割を取り入れている。ご利用者様同士で役割を分担しあいながら調整することも見受けられる。ご本人の趣味に合わせた気分転換目的の外出支援も行っている。</p>


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の金銭管理は、自己にて所持する事で安心される方や、逆に所持している事で不安やストレスとなる方もいるので、ご家族様とも充分相談し、個々にあったアプローチをしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材買い出しに近くのスーパーへ出掛けたり、その方のご要望に合わせ靴や衣類などを買いにスーパーへ出掛けたり、又、ドライブや好みの食事等と個別外出をしている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その季節に合わせた景色の良い場所や行きたい所へ外出している。昨年出掛けたコスモス畑や、隣り町の道の駅などへ手作り弁当持参で、全員で外出している。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を利用してご家族様等と連絡を取り合ったり携帯電話にご家族様から連絡が入る等、日常的に利用していた方がいたため、今後も希望があれば取り入れていく。ご家族様や友人へのお便りの宛名書きの代行や投函の代行している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様・ご友人がいつでもいになっても暖かな対応で迎え入れ、居室、リビング等でくつろいで談話できるようお茶をお出しし、近況等の話題提供しながら居心地良い時間が過ごせるよう支援している。	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より玄関の施錠は行っていない。研修会で身体拘束防止について学んだ事をホーム会議で意見交換し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠せずスタッフが玄関の出入りを見落とさないよう、ご利用者様を見守っている。玄関方面へ向かう等の仕草が見受けられた際は、声かけや外出介助対応を行っている。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングとキッチンが隣接しており、お一人お一人の所在が確認できるようになっている。居室にいるご利用者様に対しても、スタッフが随時、居室へ訪問し所在の確認と体調の把握を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は施錠できる書庫に保管・管理している。消毒薬や洗剤等も安全な場所に保管している。包丁類に関しては、職員間で取り決めをし、ご利用者様に危険がないよう対応している。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	今後の危機管理のために事故報告書やヒヤリハット報告書の記入を義務づけている。事故・ヒヤリハット発生後は検討会を開催し再発防止策やケアの見直しについて話し合っている。		
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	宇都宮シルバーホームにて行われる研修会に参加し応急手当の方法等、訓練している。急変時には、併設病院の医師や看護師と連携を図れるようマニュアル化している。		
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。又、毎月10月にホーム内の防火自主点検を行っている。敷地内3施設合同防災訓練時には地域住民等平石地区防災福祉ネットワークの方々も参加してくれている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者様の抱えているリスクをご家族様と共有できるように日々の様子をご報告している。必要がある場合にはかかりつけ医から説明していただいている。	
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日検温・血圧チェックを行い、異変があれば職員間で申し送りをして迅速に受診できるよう情報を共有している。毎月体重測定を行い、増減時は定期受診時にかかりつけ医と相談し、記録に残している。	
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い服薬介助をしており、服薬状況を記録している。残薬を確認しながら自己管理できそうな方への支援も行なっている。かかりつけ薬局にての個別分包や服薬の情報提供を受け、スタッフ間で介助方法を統一している。	
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	さつまいも等の食物繊維の多い食材を利用したメニューを提供している。便秘傾向の方には牛乳や乳酸飲料を摂っていただいたり、体操や散歩の声かけをし、体を動かすよう促している。	
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後、就寝前には、うがい・歯磨きを行なっていただくようそれぞれの力量に合わせ声かけ、支援を行なっている。うがいではうがい薬を使用し、のどの殺菌・消毒・口臭予防を行なっている。就寝前に義歯洗浄・消毒を行なっている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、ご利用者様と一緒に食事を摂り、摂取状況を把握して記録している。1日の摂取量は1500kcalを目安とし、献立は栄養バランスに配慮し、管理栄養士が立案したものを取り入れている。ご利用者様の苦手な食事についてはアレンジしたりして好みの工夫をしている。水分摂取ではお茶の時間のほか、入浴後や体操の後などに水分補給を促している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内感染症対策委員会からの情報伝達や、宇都宮市主催の研修会に参加し、スタッフ全員同一方法で手洗い励行や消毒を行なっている。年一回の環境検査を実施し、衛生状況を確認した上で清潔保持に努めている。面会者には玄関にて、手指消毒・マスクの着用をお願いしている。		
79 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、まな板、布巾、台布巾などの台所用品は、使用後キッチンハイターやプレバント水を使用し殺菌消毒を行なっている。また、食材は使いきれぬ分量を購入し、冷蔵庫は食材購入時ごとに週3回プレバント水にて消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には草花の鉢物や、ゆっくり過ごしていただけるようベンチを用意しており、併設病院の患者様や面会の方も立ち寄られている。ベンチに座って、日光浴やしりとり、歌を歌ったりして楽しんでいる。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには三方向に窓があり明るく、冬は床暖房により暖かい。木目の多い内装や暖色系の家具により、家庭的な雰囲気を大切にしている。又、季節感が味わえるよう、季節に合わせたご利用者様方の俳句や趣味の作品を展示し、みんなで鑑賞している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の安定感のある椅子はもちろんのこと、暖かな陽射しが入るリビングのソファや、静かで落ち着ける畳スペースの掘りごたつを利用し、一人や少人数でゆったりと座ったり、ごろ寝をしたり、くつろげる場をご用意している。	○	もっと家庭的になるように、ソファにカバーをかけたり、観葉植物を増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	来年の夏は鉢植えて野菜をベランダで育てたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月ではないが各担当職員が、各担当しているご利用様の行きたいところ、食べたい物を伺い、個別ケアとして一対一で出かけています。一日の日課を定めず、ご利用者様の生活習慣を知り得た上で、お一人お一人のペースを尊重した「自分らしい生活」を送っていただけるよう心がけています。